

令和3年度 横浜市市民文化会館関内ホール 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

| 評価項目 | | 令和3年度計画 | | 実施状況 | | 評価 | |
|---------------------------------|--------------------------------------|--|--------------------|-------------------|------|--|--|
| I 文化事業目標 | 指定管理者提案(要旨) | 達成指標 | 目標 | 実績 | 特記事項 | 自己評価 | 行政評価 |
| ア 市民への音楽、ダンス、演劇その他の文化芸術の鑑賞機会の提供 | 1 専門企業・団体とのネットワークを活かし、市民に喜ばれる鑑賞事業を展開 | □幅広い層へ向けた良質なコンサート系事業公演数 | 23公演 | 25公演 | B | 計画した31事業のうち9事業が中止となったが、22事業で25回の公演を実施した。 | <p>【成果】</p> <p>鑑賞事業は、音楽系25公演、ダンス系5公演、演劇・ミュージカル系22公演、落語・伝統芸能系12公演の計60公演を実施し市民の鑑賞機会の充実に寄与しました。</p> <p>当初は50%の定員で実施したのもあったが、コロナ対策ガイドラインを遵守しつつ100%の定員で実施することができ、延べ29,032名の来場者を得て、地域の賑わいの創出に貢献しました。</p> <p>公的文化事業への協力は、3事業21公演を実施し8,661名の来場を得ました。横浜市教育委員会主催の小学生向けバレエ鑑賞会シリーズ(2か月10日間19公演)はコロナ感染症拡大防止ガイドラインに沿って前年度に続き定員50%で実施され、子供たちの芸術鑑賞機会の提供に協力しました。</p> <p>地域連携事業は、11事業全12公演を実施し3,654名の来場を得ました。前年度中止となった「あいすくりーむ発祥記念の日」のタイアップイベントは、感染症対策を行って実施しました。また、例年11月に馬車道商店街との連携事業として4日間の日程で開催する「馬車道まつりアートフェスタ」は、前年に続き野外で実施を予定していた「ガスライト点灯式典」と「馬車道マルシェ」が中止となりましたが、ホール内でのイベントについては感染症対策を行い計画通り開催しました。</p> <p>昨年度に引き続きコロナ感染症の影響がある中、ガイドラインを遵守しつつ計画通りの開催ができるよう対応を徹底して概ね計画通り開催することができ、市民の鑑賞機会の充実と賑わいの創出並びに周辺地域の活性化に貢献しました。</p> <p>【課題】</p> <p>①コロナ禍を受けて、主催事業収入の安定化に向けた事業計画の再検討。</p> <p>②幅広い市民層に向けた取り組みの充実。</p> <p>③市民の鑑賞機会を安定的に提供するため1年を通じてバランスよく多くの機会を創出する工夫。</p> <p>【成果】</p> <p>次世代育成事業は4事業7公演を実施し1,223名の来場を得ました。例年好評を得ている、3歳から参加可能な本格クラシックコンサート「きつぽmeetみゆーじつく」やその他のワークショップ等、参加型型事業については乳幼児の感染症拡大等リスクが高いと判断し計画段階で見送りました。</p> <p>新進アーティスト支援事業は、コロナ感染症の影響により馬車道ショートパフォーマンスライブ1事業が中止となりましたが、東京芸術大学が今年度から開始した馬車道コンサートへの共催やちぐさ賞への協力など新たな支援を実施した。</p> <p>「学校プログラム」はコーディネーターとして当初の計画通り2校を担当し、学校側と入念な打合せを行いコロナ感染症についても十分な対策をとったうえで、アーティストを派遣しました。</p> <p>コロナ感染症の影響により、計画段階で見送るなど前年度から変更・中止した事業のある中、地域の団体との新たな連携など機会の提供に成果を上げることができました。</p> <p>【課題】</p> <p>乳幼児を含め子どもの感染が拡大する中、接触の規制が難しい子ども向けの事業の実施について、社会状況を注視しつつより慎重な計画や開催の判断が求められる。</p> |
| | | □ダンス公演系事業公演数 | 2公演 | 5公演 | A | 計画した5事業のうち1事業が中止となったが、4事業で5回の公演を実施した。 | |
| | | □演劇・ミュージカル・バラエティ系事業公演数 | 11公演 | 22公演 | A | 計画した13事業のうち2事業が中止となったが、11事業で22回の公演を実施した。 | |
| | | □落語・漫談等、伝統芸能系事業公演数 | 7公演 | 8公演 | B | 計画した10事業のうち2事業が中止となったが、8事業で8回の公演を実施した。 | |
| | 2 横浜芸術アクション事業など、公的な文化芸術事業にも積極的に協力 | □公的文化事業への協力公演数 | 3事業 | 3事業 | B | 計画した4事業のうち1事業が中止となったが、3事業で21回の公演を実施した。 | |
| | | 3 地域のブランド力を高めるシンボリックな事業を、地域と協働で開催 | □地域連携事業公演数 | 7公演 | 12公演 | A | |
| イ 次世代育成の取組を実施 | 1 子どもたちの成長度合いに合わせ、文化芸術と触れる多彩な機会を提供 | | □次世代育成事業・公演数 | 1事業 | 4事業 | A | 計画通り4事業で7回の公演を実施した。 |
| | 2 新進アーティストを支援する、発表の機会の提供 | □新進アーティスト支援事業・公演数 □馬車道ショートパフォーマンスライブ公演数 | 4事業 (SPL年間15公演) | 3事業 (SPLは全て中止) | C | 計画した4事業のうち1事業が中止となったが、3事業で5回の公演を実施した。 | |
| | 3 横浜市芸術文化教育プラットフォーム『学校プログラム』への協力 | □コーディネーター担当数 2校 | 小学校2校 | 小学校2校 | B | 計画通り2校のコーディネーターを担当し、計7クラス206名の児童に学校プログラムを提供した。 | |

令和3年度 横浜市市民文化会館関内ホール 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

| 評価項目 | | 令和3年度計画 | | 実施状況 | | 評価 | | |
|--------------------------------|--|---|-------|-------|--|---------------------------------------|---|--|
| I 文化事業目標 | 指定管理者提案(要旨) | 達成指標 | 目標 | 実績 | 特記事項 | 自己評価 | 行政評価 | |
| ウ 創作活動のための機会の提供を実施 | 1 市民とともに創り上げる、創作ワークショップと発表機会の提供 | □ 社会人向けワークショップ: ゴスペルワークショップ: 13回(3ヵ月間) □ 市民ディレクター講座 | 1事業 | 0事業 | C | 計画したゴスペルワークショップ1事業が中止となった。 | 【成果】 恒例のゴスペルワークショップを計画しましたが、コロナ感染症のリスクを鑑み中止しました。 昨年本公演を実施できなかった市民ミュージカルは、ガイドラインに沿って対策を行い実施しました。 その他接触機会の多い講座事業などは計画段階で今年度は見送りました。 【課題】 コロナ感染症の影響が続く中で講座事業・参加型事業、特に声を発する陽だまりコンサートなどの実施について社会状況を注視し、慎重に判断することが求められる。 | |
| | 2 市民が気軽に参加できるコンサート等の開催 | □ 参加型コンサート事業2事業 陽だまりコンサート(4公演) ゴスペル修了コンサート | 3事業 | 3事業 | B | 計画した6事業のうち3事業が中止となったが、3事業で6回の公演を実施した。 | | |
| エ 情報提供及び広報 | 1 共同事業体の専門性を活かした多彩な広報・プロモーション活動 | □ 催物案内 A3二つ折りA4仕上げ全4ページ | 毎月1回 | 毎月1回 | B | 計画通り月1回年12回発行した。 | 【成果】 イベント情報誌「月刊kannainfo」を前年の変更のまま4ページとし、従来どおり毎月7000部を発行し市内280か所と、みなとみらい線馬車道駅構内に配架しました。 当事業体ならではの広報として、tvkでの告知や連携を強化し周知を図りました。 tvkの番組連動公演は、人気の2番組のイベントを開催し2,402名の来場を得ました。 情報誌やチラシの配架も広く行き、市民が情報に接する機会の拡大に努めました。 【課題】 ロビーに設置の「デジタルサイネージ」について、メンテナンス費用の検出やさらなる活用の促進が課題である。 【成果】 メールマガジンの定期配信をはじめ、ツイッター、フェイスブック等のSNSを積極的に活用した。 市民モニターについては、希望者が少ないことに加え接触機会を減らすため実施を見送った。 公演の様子やCMなどをYouTubeにアップして、関内ホール動画コレクションとして配信した。 【課題】 ①市民モニターについては、市民の声を反映させる有効な仕組み再考を要する。 | |
| | | □ tvk屋の情報番組で事業告知を放映 | 年間4回 | 12回 | A | 月1回年12回の放映が行われた。 | | |
| | | □ スポットCMを制作し、tvkで放映 | 年間5本 | 8本 | A | 主催8事業のスポットCMを作成し、951回放映された。 | | |
| | | □ tvkの番組連動公演数 | 1公演 | 5公演 | A | 2事業5公演を実施した。 | | |
| | | □ 月刊「催物案内」の制作及び配布: 毎月市内280か所(5,500部) | 280か所 | 280か所 | B | 市内施設・PRボックスなど280か所に配布した。 | | |
| | | ■ デジタルサイネージを活用した、公演情報などのインフォメーションを実施します。 | 実施 | 実施 | B | 1年を通してデジタルサイネージによる情報発信を行った。 | | |
| | ■ 事業広報に各種新聞媒体・フリーペーパー・地域情報誌を活用する。 | 実施 | 実施 | B | 各種媒体にプレスリリースを送付し、積極的に活用した。 | | | |
| 2 さまざまな側面からの効果的な情報提供 | □ 関内ホールでの公演や、発表会を収録、配信 | 新規4本 | 0本 | C | 新規の収録・配信は行わなかったが、関内ホール動画コレクションにCMなど新たに10本の動画を追加した。 | | | |
| (1)映像とICTを活用した独自性のある情報提供 | ■ 関内ホールの広報にホームページ、Twitter、FacebookなどのITツールを活用。 | 実施 | 実施 | B | ソーシャルメディアポリシーに従い適切にITツールを活用した。 | | | |
| (2)市民と連携した「関内ホール市民モニター」による情報発信 | ■ 「関内ホール市民モニター」による、主催事業についての意見や感想の配信を、ホームページやFacebookを通じて行う。 | 実施 | 未実施 | C | 感染症拡大に伴い、接触機会を避けるため実施を見送った。 | | | |
| (3)撮影場所の提供による情報発信 | ■ ドラマやコマーシャル、映画撮影などの利用の際、「協力/関内ホール」のテロップを入れることを条件として積極的に誘致を行う。 | 実施 | 実施 | B | 誘致を行うとともに、利用者が映像化する際には、会場名の明示を依頼した。 | | | |

令和3年度 横浜市市民文化会館関内ホール 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

| 評価項目 | | 令和3年度計画 | | 実施状況 | | 評価 | | |
|--------------------|-----------------------------|---|----|------|------|--|--|--|
| I 文化事業目標 | 指定管理者提案(要旨) | 達成指標 | 目標 | 実績 | 特記事項 | 自己評価 | 行政評価 | |
| オ 地域の賑わいへの貢献 | 1 地元・馬車道地域のニーズに応える賑わい創出への取組 | <ul style="list-style-type: none"> ■ホワイエに「馬車道商店街店舗用チラシラック」を設置し、商店街の活性化に協力する。 ■馬車道商店街が実施するイベントのチラシ制作・配架、ウェブサイトでの情報発信に協力する。 ■来場者が見込める主催事業について、開演時間を午後帯に設定し、夕食需要や買い物需要を喚起する。 ■従来とは異なる層の来街者創出のため、若者やファミリーを対象とした事業の充実に取組む。 | 実施 | 実施 | B | あいすくりーむ発祥記念イベントや馬車道まつりなどのチラシの制作や配架、往復はがきでの応募対応・抽選結果の送付などに協力した。 開演時間を14時または15時とし、前後に飲食や買い物ができるよう配慮した。 與真司郎など若者に人気のアーティストやしまじろうなどの子供向けイベントを実施した。 | 【成果】 公演チケットの半券を提示すると提携店舗で特典が受けられる「チケ得」サービスを引き続き実施した。公演前後の時間帯には多くの人が街にあふれ、賑わいの創出に貢献した。 【課題】 地域や商店街の活性化・賑わいの創出のためには、地域・商店街との信頼関係が必須であり、それは当事業体が得た大きな成果である。それを今後も継続して行くことが重要であり、そのためには連携・調整に十分な時間をかけていくことが求められる。 | |
| | 2 地元事業への積極的な貢献 | <ul style="list-style-type: none"> ■馬車道商店街などが実施する定例行事やお祭りなどに、企画・広報など専門性を活かした協力を行う。 | 実施 | 実施 | - | | | |
| カ 文化事業実施にあたっての留意事項 | 1 ソーシャルインクルージョンに配慮した取組 | <input type="checkbox"/> 障がい者招待枠を設定「陽だまりコンサート」「ゴスペルワークショップ修了公演」 | 5回 | 0回 | C | 感染症拡大に伴い中止となったため。 | 【成果】 コロナ感染症拡大により対象事業が中止となったが、運営上は引き続き車椅子の貸し出しなど、障害のある方も安心して来館できるよう配慮を行った。 【課題】 来場者には高齢の方が多く、大ホール1階席への上り下りが大きな負担となっている。転倒事故などが発生リスクも高く設備面での対応が求められる。大・小ホール共に客席へのアクセスに段差が多くお客様から不満の声が多く聞かれる。大ホールにおいては、車椅子での入場が客席最後部のみ制限されており、観客が立った場合は、視界を遮られて舞台を見ることができないといった問題も生じている。障がい者の目線に立ったインフラ面の取も必要だが、まずは運用面での対応を検討していきます。 | |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ■SPL「MAXIMUM」シリーズで障がい者入場割引を実施する。 | 実施 | 未実施 | - | 感染症拡大に伴い中止または無観客配信ライブに変更となったため。 | | |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ■来場する障がい者の方用に駐車場を提供する。 | 実施 | 実施 | - | | | |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ■来場者へ車椅子の貸し出しを行う。 | 実施 | 実施 | - | | | |

令和3年度 横浜市市民文化会館関内ホール 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

| 評価項目 | | 令和3年度計画 | | 実施状況 | | 評価 | |
|---|--|--|---------------------------------|---------------------------------|------|--|--|
| Ⅱ 施設運営目標 | 指定管理者提案(要旨) | 達成指標 | 目標 | 実績 | 特記事項 | 自己評価 | 行政評価 |
| ア 市民の文化芸術活動の発表・創作活動のための施設の提供 | 1 公の施設としての、公平で公正な貸出業務の実施 | ■市民利用施設予約システムでの抽選。空き施設申込みによる公平で公正な貸出し業務の実施 | 実施 | 実施 | - | 【成果】 年度を通じて公平で公正な貸出しに留意して適切に履行した。 新規利用者の獲得と利用率向上に対する取り組みとして、様々な料金割引を継続したほか、大小ホールに設置した「リアル動画配信システム」の無料貸出し、リハーサル室を気軽にご利用いただくための「個人カード(はまっこカード)」での貸出しなどを引き続き実施し、感染症の影響下で稼働率を回復させることができた。 その結果、稼働率は、指定期間の目標値は下回ったものの、当期の目標はおおむね達成した。 【課題】 利用者、来場者の高齢化により、将来的なニーズの開拓が喫緊の課題である。 また、良質な公演の誘致のためには優先予約による獲得が効果的であり、公平・公正を担保し、市民への説明責任をしっかりと果たしていくことが求められる。 | 【評価する点】 ・年間を通じて新型コロナウイルス感染症の影響があった中、感染症拡大防止に努める一方で、「直前申請割引」や「得割90日前プラン」など、多様な料金割引を実施して、利用率向上を図った点を評価します。 ・それに加えて、新規利用者増加に向けた取組等もあり、利用率は前年度に比べて回復して、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮した目標を大ホールとリハーサル室(4部屋)で達成することに繋がりました。 ・すべての利用者が安心して利用できるようサポート体制を構築しているほか、前年度に引き続いて「リアル動画配信システム」を提供するなど、利用者に寄り添い、ニーズに応えようとしている姿勢を評価します。 【更なる取組を期待する点】 ・次期指定期間では、多様な利用者のニーズに対応するための新たな検討や展開がなされることを期待します。 ・良質な公演の誘致に向けて引き続き優先予約に取組むとともに、公平性・公正性の担保を引き続き進めてください。 |
| | | ■利用1ヶ月前を切った大・小ホールの空きコマについて、「直前申請割引(遅割り)」を実施する。 | 実施 | 実施 | - | | |
| | ■リハーサル室スタンプカード会員サービスを実施する。 | 実施 | 実施 | - | | | |
| | ■大・小ホール、リハーサル室全室を終日利用する場合、リハーサル室4部屋分の料金を割引する「全館利用割引」を実施する。 | 実施 | 実施 | - | | | |
| | ■大・小ホールの利用希望日90日前を切った練習利用に限り利用料金を50%割引とする「得割90日前プラン」を実施する。 | 実施 | 実施 | - | | | |
| | ■設営やリハーサルに使用した時間帯について割引を適用する「リハーサル区分割引」を実施する。 | 実施 | 実施 | - | | | |
| | ■サポーターズ倶楽部の登録団体が共催で事業を行う場合、利用料金について10%~100%割引を適用する「サポーターズ倶楽部共催割引」を実施する。 | 実施 | 実施 | - | | | |
| | 2 新規利用者の増加と利用率の向上を図る、貸出サービスの創意工夫 (1)リピーターのニーズに応え、利用率の向上を図る貸出サービス・割引優遇制度の実施 | ■営利を目的としない個人の練習向けに、利用2週間前を切った小ホールの夜間空きコマを格安で提供する「マイ練習プラン」を実施する。 | 実施 | 実施 | - | | |
| | | ■大・小ホールに生中継動画配信設備を設置し、利用者へ無料で提供する。 | 実施 | 実施 | - | | |
| | | ■保育園・幼稚園など未就学児童が主体となる団体の利用に対し、割引を適用する「未就学児童特別割引」を実施する。 | 実施 | 実施 | - | | |
| | | ■利用1ヶ月前までの練習利用について割引を適用する「市民文化団体割引」を実施する。 | 実施 | 実施 | - | | |
| | 3 利用率の目標(5か年平均) | ■直近の空き日の玄関前掲示と、ホームページ掲載。 | 実施 | 実施 | - | | |
| | | □5か年の利用率平均目標 大ホール94.8% 小ホール93% リハーサル室(4部屋平均)55% | 大ホール75% 小ホール80% リハーサル室30% | 大ホール76% 小ホール78% リハーサル室44% | - | | |
| | | 今年度は下方修正した目標を概ね達成することができたが、指定期間では令和元年度3月から令和3年度にかけて新型コロナ感染症の影響により下記の通り目標に届かなかった。 <6か年(H28年度~R3年度)の利用率平均> 大ホール80% 小ホール79% リハーサル室43% | | | | | |
| | 4 専門性を活かした、公演等への積極的な助言・サポートの実施 (1)ステージコンシェルジュによる、利便性の高いワンストップサービスの提供 (2)舞台技術者による専門的なアドバイスとサポートの実施 (3)利用者ニーズに合わせた広報活動のサポート (4)専門技術を活かした、音声や映像の記録と録画配信 | ■ステージコンシェルジュサービスを引き続き実施する。 | 実施 | 実施 | - | | |
| ■舞台の専門知識を持ったスタッフによるサービス対応 | | 実施 | 実施 | - | | | |
| ■利用者のニーズに合わせた広報サポートの実施 | | 実施 | 実施 | - | | | |
| ■関内ホールでの公演について、チケット委託販売を実施。 | | 実施 | 実施 | - | | | |
| ■権利処理可能な公演について収録を行い、関内ホールビデオフォーラムから動画配信を実施。 | 実施 | 実施 | - | | | | |

令和3年度 横浜市市民文化会館関内ホール 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

| 評価項目 | | 令和3年度計画 | | 実施状況 | | 評価 | |
|---------------------------------|--|--|--------|------------|-------------|--|------|
| II 施設運営目標 | 指定管理者提案(要旨) | 達成指標 | 目標 | 実績 | 特記事項 | 自己評価 | 行政評価 |
| イ 集会や講演利用への施設の提供 | 1 施設の特性を活かし、比較的大規模な集会や講演会のために施設を提供する。 | <p>■行政が主催する講演会や集会などに引き続き優先枠を提供する。</p> <p>■専門知識を持つスタッフによる公演実施に関するきめ細かなアドバイスをはじめ、公演に必要な物品の手配をワンストップで取り次ぐ「ステージコンシェルジュサービス」を実施し、集会・講演会利用をサポートする。</p> | 実施 | 実施 | - | <p>【成果】</p> <p>横浜市が主催・共催する研修会や集会、セミナーなどの実施に際し、優先予約による会場の確保を行い、催事の安定的な開催に寄与した。</p> <p>講演会や集会などの利用については、設営パターンごとの写真と附帯設備予算入りパンフレットを用いたご案内を実施するとともに、専門スタッフによるきめ細かなアドバイスや、公演に必要な物品等の取り次ぎを行うステージコンシェルジュサービス、紙媒体及びインターネットによる広報サービス等により、すべての利用者が安心してご利用いただけるようサポートしました。初めて利用する団体や新任の担当の方でも、滞りなく催事を行うことができました。</p> <p>今年度も引き続き、コロナ感染症の影響からセミナーなどの内容をホール設置の「リアル動画配信システム」を使用してネット配信するニーズがあり、適切に対応した。</p> <p>【課題】</p> <p>市の優先予約についても、公益性を担保し、市民への説明責任を果たしていくことが求められる。広報については、情報媒体が多様化する中で、どのようなサポートが有効か検討する必要がある。</p> | |
| | 2 利用者ニーズに合わせた広報活動のサポート | <p>■利用者のニーズに合わせた広報サポートの実施</p> | 実施 | 実施 | - | | |
| ウ 利用促進及び利用者サービスの向上及びアイデアノウハウの提案 | 1 利用者満足度の向上につながる、さまざまなニーズ把握 (1)利用者の率直な意見を聞くアンケートの実施 | <p>■来場者アンケート、事業アンケート、利用者アンケート、Webアンケートを継続的に実施することで利用者のニーズとクレームを把握し日常的に運営の改善に努める。</p> | 実施 | 実施 | - | <p>【成果】</p> <p>利用促進については、コロナ感染症の影響下にある中、一定の回復を見ることができた。</p> <p>アンケート回答や利用者からのクレームなどの意見を基に業務の改善を行う、各運営セクション合同の「責任者会議」を毎月1回実施したほか、施設の定期利用者や、馬車道商店街事務局との意見交換を随時行い、施設の管理・運営の改善に活かし、利用者サービスを向上させた。</p> <p>苦情への対応は、対応マニュアルに沿って処理を行うと共に、職員間の共有を徹底し、対策を協議したうえでマニュアルを更新することで再発防止に努め、大きなトラブルは起こらなかった。</p> <p>利用者の満足度向上のためのサービスとして、引き続き2階喫茶コーナーへ臨時カフェの出店を検討しましたが、コロナ感染症の状況が変わるまでは中止し、様々な市民の方に配慮した運営を優先した。</p> <p>【課題】</p> <p>多様化する市民ニーズに対応するため、マニュアルの更新や情報共有の徹底、教育・研修による各職員のサービススキルの向上とともに、組織的な整備がより重要になっている。</p> | |
| | (2)関係団体へのヒアリング、意見交換会の実施 | <p>□馬車道商店街とのヒアリングを3ヶ月に1度実施する。</p> <p>■市民モニターとの意見交換を随時行う。</p> <p>■事業主催者(利用者)へのヒアリングを随時行う。</p> | 3か月に1回 | 3か月に1回以上実施 | B | | |
| | 2 PDCA発想に基づくニーズ・要望への対応 | <p>□各運営セクションの責任者による月1回の責任者会議と事務所職員による「運営調整会議」を実施し、業務の改善に努める。</p> | 実施 | 月1回実施 | B | | |
| | 3 苦情発生に対する取組 | <p>■過去の苦情およびその対応を参考に「苦情対応マニュアル」を作成し全職員が共有する。</p> <p>■苦情対応フローに沿って、苦情に対する処理を行う。</p> | 実施 | 実施 | - | | |
| | | <p>■日常の「ヒヤリ・ハット」事例を日報に記載するとともに「運営調整会議」を通じ全職員が共有する。</p> <p>■改善策や再発防止策を「苦情対応マニュアル」に反映し、対応内容について「苦情・要望処理報告書」を市に提出する。</p> | 実施 | 実施 | - | | |
| | | <p>■大ホール2階ホワイエのカフェコーナーに臨時出店を行う。</p> | 年12回 | 中止 | C | | |
| 4 公演鑑賞に潤いをもたらすカフェコーナー(臨時)の設置 | <p>□自分で映像・動画を制作したい市民向けの映像講座を実施する。</p> <p>ディレクター講座</p> | 1回 | 中止 | C | 感染症の影響により中止 | | |

令和3年度 横浜市市民文化会館関内ホール 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

| 評価項目 | | 令和3年度計画 | | 実施状況 | | 評価 | |
|---------------------|---|---|-----|-------|------|--|--|
| II 施設運営目標 | 指定管理者提案(要旨) | 達成指標 | 目標 | 実績 | 特記事項 | 自己評価 | 行政評価 |
| エ 運営組織の構築及び組織的な運営 | 1 専門性が高く、かつ効率的な組織体制 | ■事務所に舞台技術の相談員として舞台技術者を常時1名配置する。 | 実施 | 実施 | - | 業務時間内は、舞台の専門知識を持つ職員1名を配置し、常時問合せに対応した。 | 【成果】 専門性の高い運営体制の下、安定的にサービスを提供し、利用者からの信頼を得て効果的な運営を行うことができた。 営業時間内は舞台の専門知識を持つ職員1名を配置することで、常時専門的な問い合わせに対応し、利用者サービスを向上させた。 共同事業体各社から適切な人材を配置し、効果的な運営を実現した。 【課題】 市民ニーズの多様化、高度化に対応し、さらなる運営体制の充実や研修の多様化・高度化が求められる。 |
| | | ■定例会議の実施や情報の共有(PCサーバー)により各職員が担当職のみならず相互に業務を補完することで効率的な運営を実施する。 | 実施 | 実施 | - | 全職員がホール運営に係わる情報がアップされている共有サーバー及び、チャットツールを活用して効率化を図る。 | |
| | | ■人員配置 | 実施 | 実施 | - | | |
| | 2 円滑な管理運営のための各種会議の実施 | □朝礼 | 毎日 | 実施 | - | | |
| | | □責任者会議 | 月1回 | 月1回 | B | | |
| | | □運営調整会議 | 月1回 | 月1回 | B | | |
| | | □運営委員会 | 年4回 | 年4回 | B | | |
| | | □関係機関連絡会 | 随時 | 随時 | - | | |
| | | □利用調整会議 | 月1回 | 月1回 | B | | |
| | | □施設管理連絡会 | 年1回 | 年4回出席 | A | 令和3年度は施設管理連絡会に4回出席 | |
| | 3 必要人材の配置と職能 (1)各企業のノウハウを活かした効果的な人材配置 | ■共同事業体各社から業務ごとに専門性の高い職員を適正に配置する。 | 実施 | 実施 | - | | |
| | | ■職員各々に応じたOJTについて年間を通じて実施する。 | 実施 | 実施 | - | | |
| | 4 主要人材の能力担保 (1)効果的なOJTの実施 (2)サービスレベルの統一とホスピタリティあふれる運営につながる研修体制 (3)利用者の大舞台を支える高品質な接客マナー | □接客マナー研修 | 年1回 | 年1回 | B | | |
| □人権研修 | | 年1回 | 年1回 | B | | | |
| □インスタントシニア研修 | | 年1回 | 年1回 | B | | | |
| □コンプライアンス研修 | | 年1回 | 年1回 | B | | | |
| □個人情報保護法研修 | | 年1回 | 年1回 | B | | | |
| □危機管理研修 | | 年1回 | 年1回 | B | | | |
| □防災訓練 | | 年2回 | 年2回 | B | | | |
| オ 本市の重要施策を踏まえた取組 | 1 個人情報保護についての取組 | ■個人情報の保護に関する法令等を遵守し、個人情報を適正に取り扱う。 | 実施 | 実施 | - | 個人情報が含まれる書類はシュレッダー細断又は溶解処理で処分する。 | |
| | | □職員向けに個人情報保護に関する研修を年1回実施する。 | 年1回 | 年1回 | B | | |
| | | ■個人情報の具体的な取扱い方法について記載した「個人情報取扱いマニュアル」を整備 | 実施 | 実施 | - | | |
| | 2 情報公開についての取組 | ■「横浜市の保有する情報の公開に関する条例」に準じて作成した「関内ホール情報公開規程」に基づき、行政文書開示請求等に対して適切に対応する。 | 実施 | 実施 | - | | |
| | | □人権研修を年1回実施し、職員一人一人が人権尊重を実践するよう取り組む。 | 年1回 | 年1回 | B | | |
| 4 環境への配慮に関する取組 | ■施設の環境を維持し、快適な環境を保つため、清掃業務を適切に行う。 | 実施 | 実施 | - | | | |
| | ■施設から発生する廃棄物の発生抑制に努めるとともに、職員によるゴミ分別励行を行いゴミの資源化を促進する。 | 実施 | 実施 | - | | | |
| | ■横浜市が推進する「みどりアップ計画」に則り、周辺地域の緑化に協力する。 | 実施 | 実施 | - | | | |
| 5 市内中小企業優先発注についての取組 | ■「横浜市中企業振興基本条例」を踏まえ、修繕等の発注、物品及び役務の調達等に当たって、可能な限り市内中小企業への優先発注に努める。 | 実施 | 実施 | - | | | |
| カ その他施設運営に関する事項 | 1 休館日の届け出について | ■休館日、閉館時間について年度ごとに横浜市へ届出を行う。 | 実施 | 実施 | - | | |
| | 2 許認可及び届け出について | ■ホール内の飲食物販売など、許認可の取得や届出を必要とする場合は関係各所に対し適正に申請を行う。 | 実施 | 実施 | - | | |
| | 3 目的外使用料の申請について | ■自動販売機、携帯中継アンテナ等の目的外使用の申請について横浜市へ届出を行う。 | 実施 | 実施 | - | | |
| | 4 財務状況の確認 | ■財務状況の確認のため、横浜市の要請に応じ財務諸表などの財務状況について確認できる書類を提出する。 | 実施 | 実施 | - | | |

令和3年度 横浜市市民文化会館関内ホール 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

| 評価項目 | | 令和3年度計画 | | 実施状況 | | 評価 | |
|--------------------------------|---|---|----------------|------------------------|--------|--|---|
| Ⅲ維持管理目標 | 指定管理者提案(要旨) | 達成指標 | 目標 | 実績 | 特記事項 | 自己評価 | 行政評価 |
| ア 施設、設備の維持保全及び管理 | 1 PDCAサイクルに基づく、計画的で高品質な施設管理業務の実施 | ■施設や設備の特性や、公演実施時の注意事項などを熟知し、「施設管理業務のPDCA」に沿った的確な管理運営を実施。 | 実施 | 実施 | - | | 【成果】 計画通り履行し、不備による利用停止もなく、常に市民の方に快適にご利用いただくことができた。 【課題】 大規模改修を行ったものの建設から30年以上が経過しており、適切な維持管理を行っていたとしても不具合が起こるリスクが増大している。これまで以上に、的確な管理が求められる。 【更なる取組を期待する点】 ・小破修繕費が目標に掲げていた費用よりも大幅に下回り、予算執行率も前年度と比べて大きく低下しました。突発的な修繕への対応が必要な場面もあることと推察しますが、安全で快適な施設運営が引き続き行えるよう、適切な修繕計画を立てて予算を計上するとともに、計画に沿って必要な時期に必要な修繕を実施するように努めてください。 ・施設の不具合箇所や修繕箇所について継続的に記録し、指定管理者と本市との間で情報共有を進めるとともに、建築後、35年が経過した施設をより適切に維持管理していくためのノウハウの蓄積を期待します。 ・新型コロナウイルス感染症対策のほか、事故防止や防災等について、常に他のホール・劇場施設等の最新の知見を取り入れることを望みます。 |
| | 2 仕様基準を上回る、高品質な施設管理のための創意工夫 | ■緊閉差に応じ、経験値に基づいた的確な空調コントロールを行う。 ■大規模改修工事で更新された設備の性能を的確に把握する。 □ホールの利用状況に応じた臨機応変な清掃対応の実施。 | 実施 実施 | 実施 実施 | - - | 新型コロナ感染対策として、外気導入を最大限にして換気を実施した。 | |
| | 3 備品等の適切な管理 | ■備品管理簿をデータ化し、備品管理を効率的に行えるよう取組む。 ■館内設置のランドピアノ4台について適切な保管環境の維持に加え、定期メンテナンスを実施することで良好な状態を保つ。 | 実施 実施 | 実施 実施 | - - | ロビーやトイレの清掃を、公演の前後・休憩中・公演中に計4回実施した。 | |
| イ 小破修繕への取組 | 1 予防保全と施設の長寿命化を図るための中期修繕計画の策定 | ■大規模改修工事等の内容を踏まえ、必要な修繕項目を精査して整理体系化を図り、「中期修繕計画」を策定する | 実施 | 実施 | - | | |
| | 2 保守管理の専門技術を活かした、迅速かつ臨機応変な突発修繕への対応 | ■設備機器類に関して、日々の設備機器運転・巡回点検で気付いた点を、諸設備の更新施工会社に相談して最良の維持管理方法を確立させる。 □突発的な修繕へ迅速に対応:常時2名の設備員を配置 | 実施 2名配置 | 実施 2名配置 | - B | | |
| | 3 修繕費・小破修繕費の計上 | ■大規模改修工事等の内容を踏まえ、必要な修繕項目を精査し、必要な修繕費を計上する。 □小破修繕費380万円の計上。 | 実施 修繕費380万円 | 実施 修繕費270万円 | - C | 前年度に修繕を終えたものが多かったため、結果的に100万円余りの縮減となった。 | |
| ウ 事故防止体制・緊急時(防犯)の対応・感染症対策等衛生管理 | 1 事故防止および犯罪防止のための方針と対策 (1)巡回警備の徹底 (2)不審者対策を兼ねた巡回時の工夫 (3)異常を未然に防止する、施設形状に配慮したきめ細かい巡視点検 (4)主催者に対する公演開催時の警備・誘導のきめ細かいサポート (5)犯罪を未然に防止する、パニックコールに応じた迅速な対応 | □警備員による館内巡回警備の徹底1日4回(開館日のみ) | 1日4回 | 警備員による1日4回以上の館内巡回警備を実施 | B | 【成果】 適切に履行し大きな事故・トラブルはなかった。感染症対策については、これまでの経験を活かしガイドラインに沿った対応を適切に履行し、館内での発生やクラスターは起こらなかった。 【課題】 マニュアルや対応方法を常にアップデートしていくために、最新かつより多くの事例や対応策の共有が求められ、1施設や各社のノウハウ・ナレッジだけでは社会の変化や時代の要請に追いつかなくなっている。 | |
| | | ■不審者対策のため、来館者に対しての声掛けや、公演開催前後に入口付近の立哨を実施。 | 実施 | 実施 | - | | |
| | | ■異常の早期発見と未然防止のため、施設形状に配慮したきめ細かい巡視点検の実施。 | 実施 | 実施 | - | | |
| | | ■主催者向け、警備・誘導マニュアルの配布と警備用品の貸出を実施。 | 実施 | 実施 | - | | |
| | | ■付属6店舗からのパニックコールに常駐警備員が迅速に対応できる体制をとる。 | 実施 | 実施 | - | | |
| | 2 緊急時(事故・犯罪の発生時)の対応の方針と対策 | ■事故や犯罪に対する緊急対応マニュアルを整備し、定期的に訓練を実施。 | 実施 | 実施 | - | | |
| | | ■舞台業務に関する作業方法や、公演中の停電及び舞台機構関連のトラブルへの対応マニュアルを整備し、職員に周知徹底を図る。 | 実施 | 実施 | - | | |
| 3 新型インフルエンザ等の感染症対策 | ■感染症防止のため、ホール出入口に手指消毒剤を設置する。 | 実施 | 実施 | - | | | |
| | ■吐しゃ物に対する正しい処理方法を職員間で周知徹底するとともに処理剤やマスク、手袋などを常備する。 | 実施 | 実施 | - | | | |
| | ■市内で感染症が発生した場合は、休館について横浜市と協議し、休館の場合はその旨の広報に努めるとともに、問い合わせに対応する体制に切り替える。 | 実施 | 実施 | - | | | |

令和3年度 横浜市市民文化会館関内ホール 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

| Ⅲ維持管理目標 | 評価項目 | 指定管理者提案(要旨) | 令和3年度計画 | | 実施状況 | | 評価 | |
|-----------------------|-------------------------------------|--|--|------|------|--|---|------|
| | | | 達成指標 | 目標 | 実績 | 特記事項 | 自己評価 | 行政評価 |
| エ 防災に対する取組み | 1 | 緊急時の連絡体制・役割分担 | ■全職員に対し緊急時の連絡体制と役割分担についての周知を徹底するとともに、非常時に備え、緊急連絡先カードを携行する。 | 実施 | 実施 | - | 【成果】 適切に履行しました。 【課題】 何度も経験を重ねて身に着けていくものではないため、マニュアルや訓練でしっかり準備するためのノウハウやスキルの獲得が課題である。 | |
| | | | ■大規模災害時には帰宅困難者一時滞在施設として適切な機能が果たせるよう、共同事業体各社が応援要員を派遣するなどのバックアップを行う。 | 実施 | 実施 | - | | |
| | 2 | 平常時の防災対策 | □自衛消防隊を設置し、年1回消化訓練を実施する。 | 年1回 | 年1回 | B | | |
| | | | □年2回防災訓練を実施する。 | 年2回 | 年2回 | B | | |
| 3 | 災害発生時の取組 | ■主催者へ避難経路図を配布するとともに、災害の種類・程度に応じた避難場所についての打合せ(例えば津波の高さによる館内上階もしくは近隣ビル高層階への避難場所選択の必要性)を主催者と徹底する。 | 実施 | 実施 | - | 暴風雨警報や大雪予報が出た時は、事務所職員・警備員・設備員が宿泊待機して非常時に備える。 | | |
| 4 | 障がい者の安全管理対策 | ■災害発生時に障がい者を避難させる場合は、誘導担当職員が付き添うとともに、最終的に避難の完了を現場責任者が確認する。 | 実施 | 実施 | - | 複数員で対応する必要性を全職員に周知徹底する。 | | |
| オ その他施設管理に関する事項 | 1 | 来場者に対し、近隣の駐車場を把握して案内するなど、円滑な運営に努める | ■付近の駐車場マップを作成し、来場者にご案内する。 | 実施 | 実施 | - | 【成果】 計画通り履行し、複合施設の管理者として、施設全体の美観を維持し、快適な環境を提供した。 【課題】 コロナ収束後に、外気導入量を基準値へ戻したうえで、ガス使用量の推移を改めて検証する必要がある。また、電気・ガス供給がひっ迫する状況下で、安定的な供給を確保するとともに、コストの抑制が大きな課題である。 | |
| | 2 | 併設する青少年センターに係る業務 | ■日常清掃、定期清掃、巡回警備、保守管理を実施する。 | 実施 | 実施 | - | | |
| | | | □毎月1回、催事スケジュールについての情報交換を行う。 | 月1回 | 月1回 | B | | |
| | 3 | 併設する6店舗に関する業務 | □情報共有と運営改善のための6店舗連絡会を年2回定期的に開催する。 | 年2回 | 年4回 | A | | |
| | | | ■定期的にエアコンの消防設備の点検、店舗前の巡回警備、防犯対応、清掃を実施する。 | 実施 | 実施 | - | | |
| | | | ■横浜市と公有財産賃貸契約を締結する。各店舗と賃貸借契約を締結する。 | 実施 | 実施 | - | | |
| | 4 | 施設の管理を行う上で必要な資格者の配置 | ■入居店舗が撤退した場合は市と協議の上、新入居者を選考する。 | 実施 | 実施 | - | | |
| □電気主任技術者(3種)を1名選任する。 | | | 実施 | 1名選任 | B | | | |
| □建築物環境衛生管理技術者を1名選任する。 | | | 実施 | 1名選任 | B | | | |
| □特定産業廃棄物管理責任者を1名選任する。 | | | 実施 | 1名選任 | B | | | |
| | 「ESCO」事業に係る業務 ※平成30年度末でESCO事業は終了 | ■横浜市による「ESCO」事業は平成30年度末に終了となったが、当事業実施時の省エネルギー効果を維持するように心掛ける。 | 実施 | 実施 | - | | | |

令和3年度 横浜市市民文化会館関内ホール 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

| 評価項目 | | 令和3年度計画 | | 実施状況 | | 評価 | |
|---------------------|-----------------------------------|--|----|-----------|------|--|--|
| IV 収支 | 指定管理者提案(要旨) | 達成指標 | 目標 | 実績 | 特記事項 | 自己評価 | 行政評価 |
| ア 指定管理料のみに依存しない収入構造 | 1 割引優遇制度など独自の利用料金制度の実施 | ■直前利用割引やリハーサル室スタンブサービスなどの各種利用料金割引を継続し、利用者数の向上に努める。 | 実施 | 各種割引制度を実施 | - | 【成果】 コロナ感染症の影響により定員50%で行った事業や中止になった事業があり、目標金額に届かなかったが実施した公演のほとんどで計画を上回った。企業協賛金は得られなかったがチケットの受託販売を積極的に行い収入増に取り組んだ。 【課題】 公的助成金の対象事業が少なく、また多くの事業が収益を出しているため、持ち出し部分の一部を補填する公的助成金を活用するメリットは限定的である。オープンデーなど普及育成事業で助成金を得られるよう取り組んでいく必要がある。 【更なる取組を期待する点】 ・自主事業による事業収入を基盤としながら、助成金や協賛金の獲得に向けて積極的な取組を継続してください。 ・令和3年度の終盤から電力料金や物価上昇などのリスクに直面する状況が続いていますが、利用者の利便性を損なうことなく、効率的かつ安定的な業務執行に努め、コスト削減を図ることを期待します。 | 【評価する点】 ・新型コロナウイルス感染症の影響が続いた中で、実施した公演のほとんどで事業収入が計画を上回り、全体としても前年度実績を上回ったことを評価します。 ・チケットの委託販売を積極的に行い、収入増を図るなど、収入構造を指定管理料のみに依存しないように努める取組が見られました。 |
| | 2 自主事業の充実による事業収入の増加 | □主催公演事業の実施による事業収入:2,200万円 | 実施 | 2,000万円 | B | | |
| | 3 質の高い事業企画による企業協賛や公的助成金の活用 | ■主催事業について公的助成金や企業協賛を得られるよう積極的に取組む。 | 実施 | 未実施 | - | | |
| イ 経費削減等効率的運営の努力 | 1 職員のマルチジョブ化によるサービス向上とコスト削減の実現 | ■定例会議の実施や情報の共有(PCサーバー)により各職員が担当職員のみなで相互に業務を補完することで効率的な運営を実施する。 | 実施 | 実施 | - | 【成果】 「経費削減等効率的運営の努力」に係わる諸提案を達成指標に沿って履行しました。 【課題】 今まで予想されなかった電力料金や物価の上昇など急激な社会的変化に対応するため、さらなる長寿命化の取組や効率化など業務コストの縮減が求められ、厳しい運営状況が予想される。 | |
| | 2 運営ノウハウ等経営資源の活用による経費削減策 | ■2期の運営経験から得たノウハウを活用することで、さまざまな経費を削減し、サービスの向上とコスト削減に努める。 | 実施 | 実施 | - | | |
| | 3 エコハマ3Rプランに基づく日常的な3R活動と省エネルギーの推進 | ■施設内で3R(リユース・リデュース・リサイクル)を推進し、廃棄物の減量および適正処理を行うとともに、必要のないライトを消灯するなど、全職員が省エネルギーに努める。 | 実施 | 実施 | - | | |
| | 4 業務の標準化・見える化による生産性の向上 | ■業務手順についてワークフローやマニュアルを作成するなど、業務の標準化を進め生産性の向上に努める。 | 実施 | 実施 | - | | |
| | 5 グループウェアを活用した情報共有による業務効率化 | ■情報共有手段としてグループウェア・共有サーバーを活用し、作業の効率化を図る。 | 実施 | 実施 | - | | |
| | 6 予防保全によるムリのない中長期的な維持管理経費の削減 | ■チェックリストを用いた巡回点検に重点を置き、些細な不具合の早期発見および小破修繕により、中長期的な経費削減を図る。 | 実施 | 実施 | - | | |

| 評価項目 | | 令和3年度計画 | | 実施状況 | | 評価 | |
|---------------------------------|--|----------------------|-------|------|------|---|------|
| V PDCAサイクルの確実な運用 | 指定管理者提案(要旨) | 達成指標 | 目標 | 実績 | 特記事項 | 自己評価 | 行政評価 |
| PDCAサイクルの確実な運用 | 1 日報及び月間業務報告書の作成・管理 | ■各種日報を作成する。 | 実施 | 実施 | - | 【成果】 計画通り履行し、課題や改善点に役立てた。 【課題】 業務評価をより効率的効果的に行うため合目的で一般市民にもわかりやすい計画書・報告書のための検討が必要と考える。 | |
| | | ■月報を作成しモニタリング時に提出する。 | 実施 | 実施 | - | | |
| | | ■各日報、月報を適切に管理保管する。 | 実施 | 実施 | - | | |
| 2 事業計画書及び事業報告書の作成・管理 | ■業務計画書(次年度の業務計画、収支予算)を作成し横浜市に提出する。 | 実施 | 実施 | - | | | |
| | ■業務報告書(前年度の業務報告及び利用実績、収支決算)を作成し横浜市に提出する。 | 実施 | 実施 | - | | | |
| 3 業務評価(モニタリング、自己評価、第三者による評価の実施) | □モニタリング会議を毎月実施し、横浜市へ運営状況の報告を行う。 | 月1回 | 月1回実施 | B | | | |
| | ■自己評価の実施 | 実施 | 実施 | - | | | |

| 評価項目 | | 令和3年度計画 | | 実施状況 | | 評価 | |
|---------|-----------------|--------------------------------------|----|------|------|---|------|
| VI 留意事項 | 指定管理者提案(要旨) | 達成指標 | 目標 | 実績 | 特記事項 | 自己評価 | 行政評価 |
| 留意事項 | 1 保険及び損害賠償の取扱 | ■施設賠償保険、動産総合保険、レジャー・サービス施設費用保険に加入する。 | 実施 | 実施 | - | 【成果】 「留意事項」に係わる諸提案を達成指標に沿って遂行しました。 【課題】 関係法令等の改正への対応と職員の理解の促進がこれまでに以上に求められる。 | |
| | 2 関係法令等の順守 | ■業務を遂行するうえで、定められた関係法令等を遵守する。 | 実施 | 実施 | - | | |
| | 3 市及び関係機関との連絡調整 | ■馬車道商店街、住吉町内会の連絡会等へ出席する。 | 実施 | 実施 | - | | |

令和3年度 横浜市市民文化会館関内ホール 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

| 評価項目 | | 令和3年度計画 | 実施状況 | 評価 | |
|------|------------|---------|------|---|--|
| 総括 | 特記(提案事項要旨) | 達成指標 | 特記事項 | 自己評価 | 行政評価 |
| | | | | <p>第3期指定管理期間の延長年度となる令和3年度は、コロナ感染症の影響が続く中、感染症対策ガイドラインに従い、以前の状況に復するよう細心の配慮をしつつ運営に努めました。コロナ前までの回復はなかったものの、稼働率・入場者数ともに前年度に比べ大きく改善することができました。前年度の経験をもとに、ノウハウを蓄積するとともにスタッフ間で共有し不断の努力により実現できた結果と考えます。</p> <p>施設の日別稼働率は、大ホールが前年度41%(時間帯稼働率34%)から76%(時間帯稼働率66%)へ、小ホールが前年度48%(時間帯稼働率33%)から78%(時間帯稼働率60%)へ、リハーサル室が前年度平均22%から44%となりました。時間帯稼働率の前年度比は、大ホールで32%、小ホールで27%、リハーサル室で22%の増加となりました。</p> <p>利用料収入は69,985,765円(横浜市からの新型コロナ影響額補填含まず)、前年比220%になりました。</p> <p>まだまだコロナ感染拡大の終息が見えない中、すべての人が等しく文化芸術に触れる機会を持つことの重要性が再評価されており、関内ホールという文化施設及び文化芸術振興機関を担う指定管理者として現状に対して有効な貢献を果たすのみならず、未来を見据えた活動の重要性が高まっています。</p> <p>社会に対して、市民に対して、地域に対して、地元商店街や地域経済に対して、関内ホールが果たすべき役割を常に意識しつつ運営して来しました。3期の指定管理期間を通じて、少なからぬ貢献をしてきたものと自負しておりますが、次期指定期間においても、常に市民とともに未来を見据え、文化芸術による地域振興に寄与してまいります。</p> | <p>令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響から、当初の指定期間を1年間延長した年度に当たりました。前年度に引き続いて感染症対策が求められたほか、収容率等にも制約があったものの、指定管理者はノウハウを活かしながら、大きなトラブルに見舞われることもなく安定的に施設運営を行ったことを高く評価します。</p> <p>そのような施設運営を背景として、施設の稼働率は大ホール、小ホール、リハーサル室とも大きく回復し、入場者数も増えて利用料金収入も大きく改善しました。</p> <p>・今後は、感染症の影響から脱却して通常運営の流れに戻っていくことが見込まれます。次期指定期間では、アフターコロナを見据えた事業企画やサービスの実施を期待します。</p> <p>・自治会や商店街などとの連携を引き続き行い、感染症対策を施しながらタイアップイベントや連携事業を開催するなどして、地域との良好な関係づくりや地域経済への貢献につなげていきます。引き続き、地域連携に積極的に関わることを望みます。</p> <p>・施設や設備の維持保全に向けて、修繕が望まれるポイントを日頃から洗い出し、計画的に対応していくよう心がけてください。また、緊急対応が必要となった際にも迅速に動きが取れるよう、体制を引き続き維持してください。</p> <p>・関内ホールは開館以来、当該地区の核となる集客施設となっており、地域の経済にも大きな影響をもたらしています。次期指定期間では、そうした原点に立ち返り、地域の中でどんな役割を果たせるかを改めて検討するとともに、これまでの事例にとらわれず、関内ホールや地域を活性化させる新たな取組を開拓していくことも期待します。</p> |